



# JUMP 報告書

2015年10月から2021年3月までの活動報告

～多職種連携による展開～

Japanese Unidentified and Missing Persons  
response team

日本身元不明・行方不明者対策チーム

JUMP のロゴマークは、

「暗闇のトンネルの先には希望を照らす、  
身元がわかるということへの安心感へ」と  
いうイメージが図案化されています。

## はじめに

2011（平成 23）年 3 月 11 日の東日本大震災から 10 年が過ぎました。皆様にとっての 10 年はどのような日々でしたでしょうか？私は、前半の 5 年間は毎日後悔ばかりしていましたが、後半の 5 年間は JUMP メンバー・サポーターとともに歩む時間を過ごせました。その歩みを本書「JUMP 報告書～多職種連携による展開へ～」に記載いたしました。

2021 年 2 月 21 日のシンポジウムでは、臨床宗教師である高橋悦堂先生の進行により、参加者全員で黙祷を捧げることができました。現在は、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、いろいろな活動が制限され、前向きな気持ちを維持することが困難ではあります。しかし、災害が発生しないという保証はどこにもありません。JUMP は、次期代表を熊谷氏へ引き継ぎ、新たな気持ちに切り替えて活動してまいりますので、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

JUMP 代表 齊藤久子

## Contents

第1章	提言	4
第2章	多職種連携の災害机上訓練	6
第3章	海外の視察報告	15
第4章	セミナー or シンポジウム	20
第5章	サポーターからの寄稿	27
	千葉県歯科医師会警察歯科医会 副会長 大森基夫先生 香川県坂出市 宮崎歯科医院 宮崎芳樹先生 秋田県秋田市 あいば歯科医院 山下直行先生 東京都歯科医院勤務（新宿区新型コロナ相談員） 辰巳由里子先生 愛知県常滑市 I Dental Clinic 勤務医 十川 視先生 アリッド株式会社 代表取締役 愛知学院大学未来口腔医療研究センター 研究員 堀 直介先生 岩手医科大学医学部法医学講座 前教授 出羽厚二先生	
第6章	おわりに	35
	謝辞：サポーターリスト	37
	付録：ポスター、学会発表リスト、学術論文、著書	38

## JUMP メンバー：

斉藤久子、熊谷章子、勝村聖子、岡広子、大林由美子、小菅栄子、  
咲間彩香、岡久美子、佐藤真奈美

## ミーティング風景：

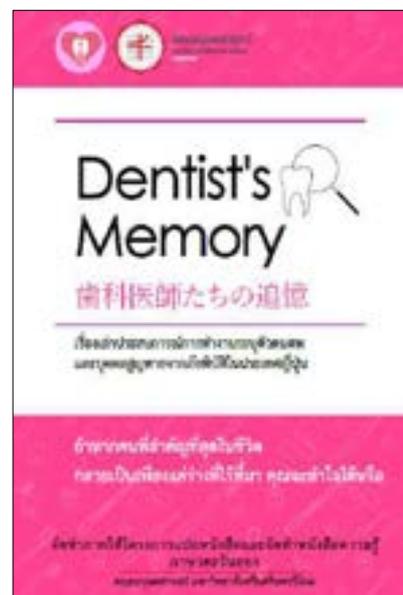
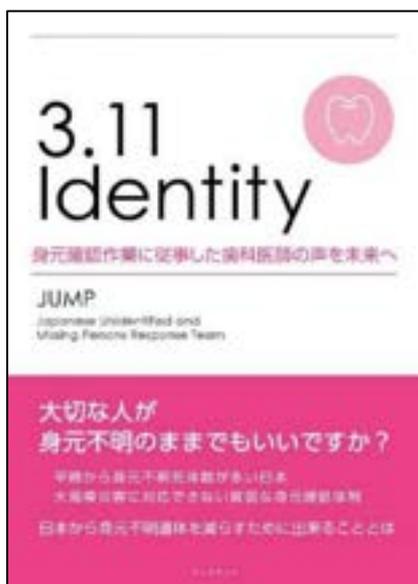


2016年1月10日第1回 MTG



2020年12月17日第7回 MTG(ZOOM)

※JUMP 著書「3.11 Identity」(定価 1,500 円) は、2016 年 3 月 11 日に出版されました。  
その後、2019 年 9 月 30 日には上野樹里さんのインスタグラムで紹介され、  
2020 年 5 月には著書の一部がタイ語へ翻訳され、出版されました！



## 第1章 提言

日本は有数の自然災害大国であり、鉄道や航空機などの人為的災害も発生しています。2011年3月11日の東日本大震災では、被災3県において22名の身元の取り違えが発生しました。JUMPは、1985年の日航機墜落事故、1995年の阪神・淡路大震災及び東日本大震災での「大規模災害時における歯科所見を用いた身元確認」について比較し再検証しましたが、事故及び災害の発生した時期、時間帯、場所及び災害の種類は異なっても、ほぼ同様の反省点であり、過去の災害の教訓が東日本大震災に活かされていなかったことが判明しました。

東日本大震災では、顔貌・所持品といった主観の伴う手段で行われ、検視・検案・歯科所見採取は警察官、医師、歯科医師といった専門家のそれぞれの流れ作業で行われました。一方、海外では、ICPO (International Criminal Police Organization : 国際刑事警察機構) の推奨する多職種連携の DVI (Disaster Victim Identification : 災害犠牲者個人識別) の方法により行われています。その DVI 方法とは、検視・検案・歯科所見採取などの個人識別作業をそれぞれの専門家が1チームとなってお遺体1名ずつの所見を採取していく方法で、身元特定の最終判断は6名以上の専門家で行われます。

海外12か国(アメリカ合衆国、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、フィンランド、インドネシア、オランダ、ニュージーランド、大韓民国、スウェーデン、スペイン、サウジアラビア)における災害時個人識別を調査しましたところ、多くの国が国家主導の DVI チームを有し、IT の活用が進んでいることが明らかとなりました。さらに、歯科法医学者が個人識別に従事するとともに、専門的な歯科法医学教育を受けたメンバーを中心とする災害犠牲者個人識別の教育・訓練システムが構築されていました。日本においても、教育・訓練を含め、国際標準の DVI に対応できる体制構築が必要と考えられます。

2019年8月にブラジルでの CIDEM (International Congress of Mass Disaster) プロジェクトの一環として開催された、海外11か国における歯科法医学者達におけるウェブ会議では、災害で行方不明となった犠牲者の搜索期限、生前資料収集の困難さに関する国別の相違、死後記録としての歯科所見コードの標準化等が討論されましたが、その議題は、**国家組織としての DVI チームが存在する**ことが前提でありました。本プロジェクトの災害訓練では、DVI チームは多国籍で編成され、全員のメンバーが死後記録の全項目を把握しており、作業開始時にはさまざまな言語が飛び交い混乱しましたが、最終的には ICPO プロトコルという国際標準の方法に従うことで十分な死後記録が完成されました。同じ領域の専門家同士といえども、多国籍で初対面同士の者たちで編成されたチームでは、明らかに

混乱が生じ、最初から適切な対応ができることは期待できません。しかし、作業の標準化でその混乱は最小限にすることが可能になったのです。

JUMP が主催しました「多職種連携による ICPO 式 DVI 方法による災害机上訓練」を通じて、見えてきた課題と展望があります。ICPO 式は主観的な方法ではなく科学的根拠に基づくものであり、外国籍の犠牲者への対応を考えると有用性は極めて高いと考えられますが、その一方、外国人のみに特有の所見が存在し、英語表記であることや、日本語への翻訳版をどうするか、などの課題も多く、今後は、ICPO 式に対応可能な日本式の DVI フォーマットを開発するなど、柔軟な展開を模索すべきだと思われます。

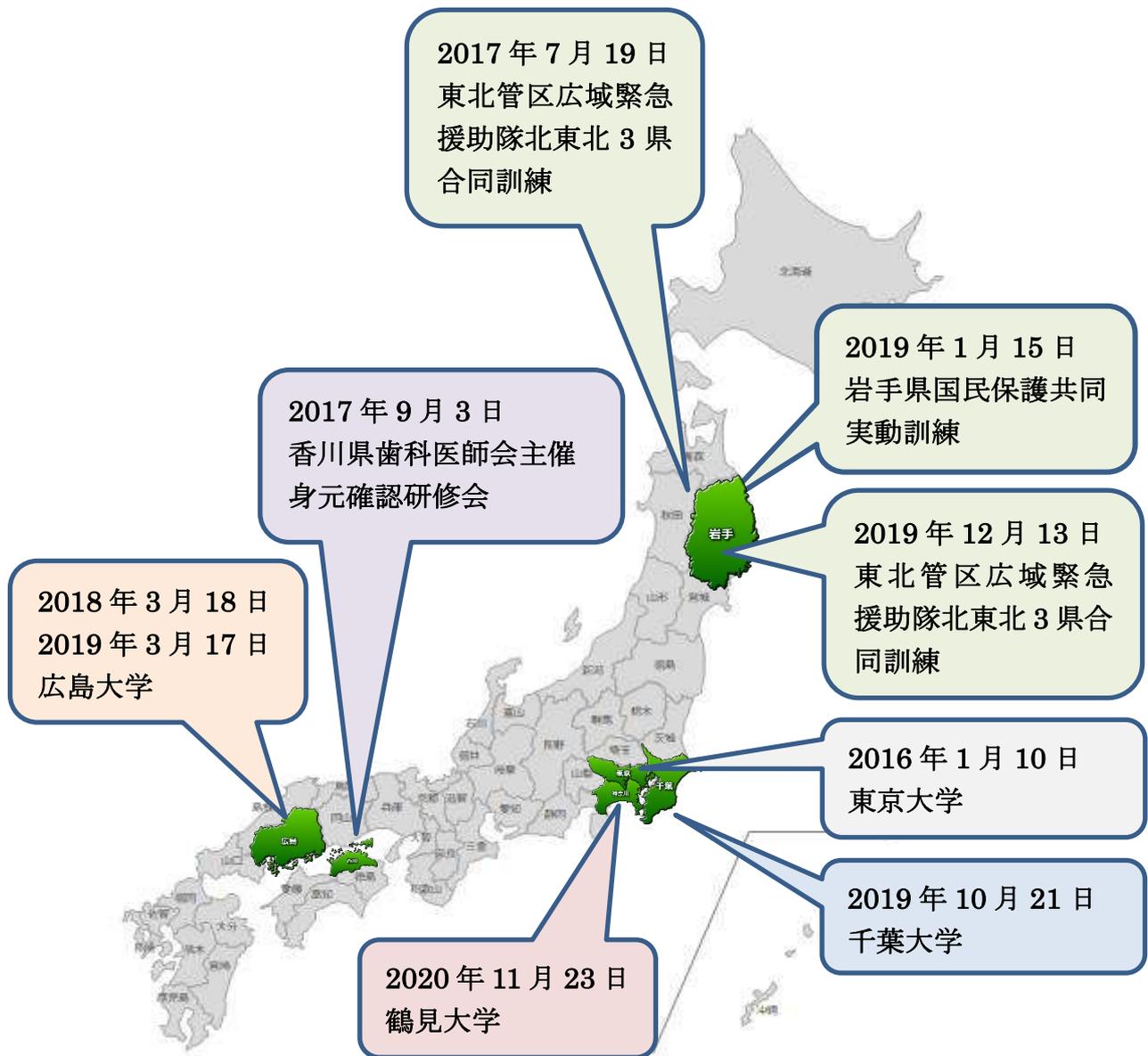
2004 年 12 月のスマトラ島沖地震を経験したタイでは、災害時に適用される新しい法律の成立や改訂などが行われています。法務省法科学研究所には個人識別部門が設置され、平時及び有事における身元判明率の向上に日々取り組んでおり、多職種参加型の法医学セミナー及び災害訓練を実施し、災害対応の準備を日頃から行っています。タイの今後の課題としては、スマトラ島沖地震から 16 年経過し、震災を経験していない世代に当時の災害対応をどのように伝えていくのか、人材育成をどうすべきなのか、などとなっております、これは今後の日本が背負う課題と共通するものであります。

まずは、国主導で多職種が参加する DVI チームを結成し、災害や事故に対する対応への意識を高めあい、お互いの職種で実施する技術の共有が非常に重要であると考えます。その過程で、日本の DVI システムはどうあるべきか、国内外で発生する災害に関してどのような活動を行うべきか、検討していくべきであると考えます。また、現在、新興感染症である新型コロナウイルス感染症が蔓延していますが、ご遺体に携わる全職種に対しての十分な感染防護対策が必須であることを申し添えます。

JUMP は、2015 年 10 月に設立し 2021 年 3 月までの 5 年 5 か月に亘って活動してきましたが、以下の通り、提言させていただきます。

1. 国主導の多職種の DVI チームを結成すること
2. DVI システムのデジタル化を行うこと（ペーパーレス化の推進）
3. 国が主体となる多職種参加型の災害訓練や研修会を定期的実施すること
4. 多職種における人材育成を推進すること
5. 国際化に伴い、ICPO 式に対応可能な日本式の DVI フォーマットを開発すること
6. ご遺体に携わる全職種に対して、ご遺体からの感染リスク軽減に関する教育・研修を実施し、作業時における感染防護対策を十分に実施すること
7. ご遺族及び災害支援者に対してのグリーフケアを実施すること

## 第2章 多職種連携の災害机上訓練



## 2-1. JUMP メンバーによる災害机上訓練 2016年1月10日

会場：東京大学法医学教室

参加者数：13名

主な参加者：JUMP メンバー、医師、新聞及びテレビ記者など

アドバイザー：出羽先生（岩手医大前教授）、岩瀬先生（東大・千葉大教授）

想定：7万人が収容可能なスタジアムでサッカーの国際交流親善試合が行われていたところ、試合中、空からドローン 5 機が侵入。ドローンには爆発物が積まれており、客席に落下したドローンがそれぞれ爆発し、炎上。映像はテレビ中継を通じて全国に放送中。生存者のみ脱出、負傷者は病院に搬送。化学兵器の使用も疑われたため、現場は警戒態勢が敷かれ、犠牲者を会場に放置した状態で一時場内は進入禁止になった。

本訓練の目的は、「各レベルの組織の代表となり、歯科医師の派遣体制を組むこと及び精神的ストレスを疑似体験すること」であった。JUMP メンバーは初めての顔合わせのミーティング後に、訓練のプレイヤーとなり、用意されたタスクカードに対して、それぞれの役割に応じた対応や他の組織と連絡を取るなどのシミュレーションを体験した。

このような机上訓練の開催には、企画運営、事前準備そして当日の進行に関する多大な労力と専門的知識が必要であることを実感し、さらに、訓練後に抽出された多数の課題点から次回への改善策を練ることを学んだ、JUMP にとっては初めての貴重な訓練であった。



アドバイザー出羽先生



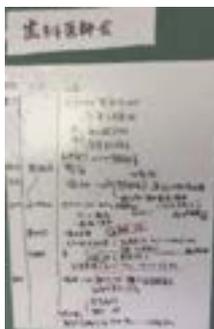
アクションカード



JUMP メンバー



アドバイザー岩瀬先生



組織としての対応シミュレーション



JUMP メンバー

- 2-2. 東北管区広域緊急援助隊北東北3県合同訓練 2017年7月19日  
 会場：岩手医科大学矢巾キャンパス 災害時地域医療支援教育センター  
 参加者数：約60名  
 主な参加者：東北3県警察、海上保安部、消防、大学法医学・法歯学関係者、岩手医科大学学生、医師会・歯科医師会など

想定：岩手県直下型地震発生。被災地域は県央部を中心に広範囲に及んでいる。倒壊家屋多数、火災も発生、インフラ壊滅、多数死体が発生。

「検視・身元確認訓練」のプレイヤーとして参加。途中、停電下の環境や、放射能汚染された遺体の歯科的死後記録採取訓練も行われた。



作業者同士の事前打ち合わせと準備



停電下での作業



放射能汚染された遺体への対応



非常食の準備

## 2-3. 香川県歯科医師会 2017年9月3日

会場：香川県歯科医療専門学校7階「8020ホール」

参加者数：96名

主な参加者：香川県医師会、香川県歯科医師会、香川県警察、  
高松海上保安部、坂出海上保安署など

### 訓練内容について

2017年度の公益社団法人香川県歯科医師会警察歯科医会主催の身元確認研修会では、講演と実習が行われた。講演は岩手医科大学法医学講座教授（当時）の出羽厚二先生が「大規模災害時の検案・身元確認の体制について」の演題で「どのような想定で」「どのような準備をして」「どのような訓練をするべきなのか」を具体的に深く考える大きな助けとなった。JUMPの実習は「INTERPOLの死後記録を使用しての多職種連携による世界基準の机上訓練」として訓練の意義および記載方法の説明を斉藤氏が行った後に、各職種が混在したグループで、INTERPOLの死後記録用紙にご遺体の所見を記載した。

多職種連携によるご遺体の所見の記載は、各職種の専門的なすどい視点を他の職種が初めて知ることができ、身元確認に携わる想いは同じだと実感できたという意見があった。一方、事前の十分な訓練が相当必要だと感じたり、英語に心理的抵抗があったという意見もあった。最後に各職種の視点についてのお話を警察官、医師、歯科医師が行い、出羽先生に講評を頂いて閉会した。閉会後の名刺交換会ではJUMPと香川県の歯科医師、医師、警察官、海上保安官が和やかに交流を深めた。



机上訓練開始時風景



各グループによる訓練風景



訓練後のランチ会

## 2-4. 広島大学 2018年3月18日、2019年3月17日

会場：広島大学歯学部大講義室

参加者数：24名（2018年）、29名（2019年）

主な参加者：医師、歯科医師、海上保安官、歯学部学生など

JUMP の協力の下、医歯薬保健学研究科（現・医系科学研究科）附属死因究明教育研究センターのセミナーにおいて災害時身元確認の講演および机上訓練を実施した。

各年とも当日は、国内の多地域から身元確認に携わる歯科医師をはじめ、歯学部学生、医師、海上保安官らが参加して、模擬人形と INTERPOL の災害犠牲者身元確認の死後記録を用いた机上訓練を体験した。訓練には、学部学生（2018年5名、2019年2名）や大学院生（2018年3名、2019年7名）の参加もみられた。また、訓練グループ内で各県の身元確認の状況や体制について情報を共有することもできた。

訓練後には災害食の試食会（2018年）や大韓民国 National Forensic Service 個人識別部門の Sang-Seob Lee 先生による大韓民国の個人識別のシステムについて概要紹介（2019年）も企画し実施した。



机上訓練風景



非常食の試食風景

2-5. 岩手県国民保護共同実動訓練 2019年1月15日

会場：釜石鵜住居復興スタジアム、鵜住居地区生活応援センター、他

参加者数：約900名

主な参加者：岩手県県庁、消防、自衛隊、警察、海上保安部、医師会、  
歯科医師会、岩手医科大学、日本赤十字岩手県支部、  
県立病院、釜石市市民など40機関

想定：ラグビーW杯の国際試合開始直前のスタジアム内で、テロ組織によってサリンが散布され、駐車場では爆弾が爆発、多数死傷者発生。

「検視・身元確認訓練」のプレイヤーとして参加。サリン汚染された遺体への対応として、遺体安置所の養生と対応者の防護の徹底、多国籍犠牲者対応を想定してICPO式書式による歯科的死後記録採取が行われた。



来日した Marques 先生と



スタジアムでの傷病者救出訓練



医療救護班の訓練



遺体安置所設営の様子



作業前の打ち合わせ



歯科的死後記録採取



ICPO 式書式への記入



訓練に参加した歯科医師

2-6. 千葉大学 2019年10月21日(月)15時～17時

会場：千葉大学附属図書館 亥鼻分館3階 ライブラリーホール

参加者数：約30名

主な参加者：法医学及び法歯学分野の医師、歯科医師、千葉県警察など

「多職種連携によるDVI机上訓練」

主催：JUMP

共催：千葉大学附属法医学教育研究センター

はじめに、斉藤氏及び勝村氏から、各地域の訓練内容の紹介が行われた。

次に、医師1名、歯科医師1名、歯科医師役1名、警察官2名、カメラマン役1名の計8名のチームを1グループとし、2グループを結成し、災害犠牲者のご遺体役である人形に対して、ICPO式のDVI書式の死後記録を記入するという机上訓練が行われた。訓練の参加者らは、それぞれの職種の視点についての説明を行ったり、ICPO式と日本式の違いについての討論を行ったり、他職種で相談しながら死後記録を記入していた。その後、参加者及び見学者を含めて、多職種による意見交換を行い、参加者全員にアンケート調査を行った。アンケートではさまざまな意見をいただいたが、多職種の専門家が一同に集まり、このような災害机上訓練を通じて意見交換を行うことは有意義であったと思われる。また、「今後の継続が大切です」という意見はJUMPの活動そのものに当てはまるものであり、我々JUMPにとっても大きなステップであったと思う。



訓練前に講演を受講する参加者風景



講演中の勝村氏



医師、歯科医師、薬剤師、警察官等で机上訓練実施

2-7. 東北管区広域緊急援助隊北東北3県合同訓練 2019年12月13日

会場：岩手県警察学校体育館

参加者数：約60名

主な参加者：東北3県警察、海上保安部、消防、  
大学法医学・法歯学関係者、医師会・歯科医師会など

想定：バス放火事件。遺体安置所に搬入された遺体すべてが著しく焼損し開口不能。そこで口外法 X 線撮影を行い事前入手した候補者の生前資料となるパノラマ X 線画像と照合した。

「検視・身元確認訓練」のプレイヤーとして参加。開口不能の遺体は歯科情報による身元確認ができないということを否定するため、視覚的な治療痕確認に依存せずに、口外法で得られた画像と生前資料となる X 線画像の比較で異同判定を行った。



作業前の打ち合わせ



口外法による X 線撮影



デジタル画像による照合



訓練に参加した歯科医師



口外法撮影によって得られた死後画像

## 2-8. 鶴見大学 2020年11月23日

会場：鶴見大学歯学部

参加者数：会場参加型8名、YouTube 152回視聴（2021年3月時点）

主な参加者：医師・歯科医師、警察官、海上保安官等

「遺体安置所内での感染症対策下における多職種連携活動」

主催：JUMP・鶴見大学公共医科学研究センター

共催：鶴見大学歯学部法医学・神奈川県歯科医師会・千葉県歯科医師会・

千葉大学附属法医学教育研究センター

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、JUMPとして初めてのライブ配信訓練を実施した。本訓練は、感染症が蔓延する中で災害が発生し、遺体安置所の設置を余儀なくされた場合に備えて、「検視・検案・身元確認」等のあり方について検討し、将来に予測される大規模災害に向けての体制の強化に繋げ、発展的に考究することを目的とした。

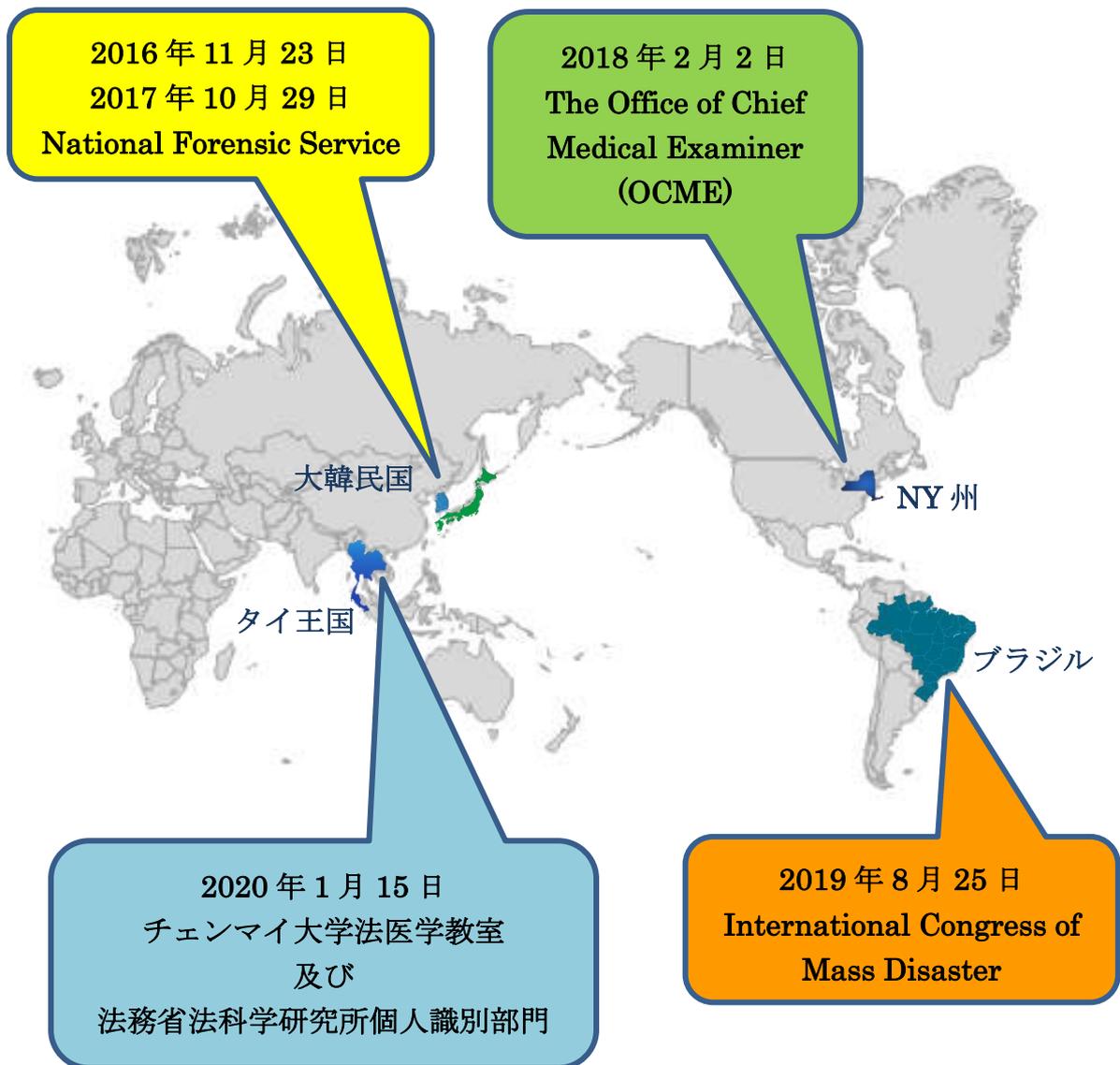
冒頭、「歯科所見採取時に注意すべき感染症について」（斉藤）の講演では、検死の際に留意すべき感染症について紹介した。続いて、防護服の着脱の順番と注意事項を解説し（勝村）た。会場参加者は防護服を着用して訓練を実施し、①警察の着衣・所持品確認、②医師による検案：当日参加して下さった横浜市立大学の井濱容子教授が説明、③口腔内所見採取：神奈川県歯科医師会の堀真治先生、千葉県歯科医師会の高橋晃先生が実演した。最後に防護服を脱ぎ、鶴見大学の佐藤教授が総括して訓練は終了した。

防護服着用での作業による暑さや息苦しさ、不自由さなどの中で、多職種とのコミュニケーションの重要性などを感じることができた。初めてのライブ配信で、資料の配布やアクセスが円滑に進まず、反省点は多かったが、災害の発生に備えて今後もこういった訓練を実施していくことを考えながら、次回以降に続けていきたいと思う。



感染防護服を着けた状態での歯科所見採取風景

### 第3章 海外の視察報告



### 3-1. 大韓民国 National Forensic Service (NFS: 韓国科学捜査研究院)

参加者：齊藤久子、石井名実子(サポーター) (2016年11月23～25日)  
熊谷章子、岡広子 (2017年10月29～11月1日)

NFSは、1955年に内務省の附属機関として設立された法医学に関連した事例を広く取り扱う機関で、韓国国内に本部と5カ所の支部がある(専門職員439名、取扱事例数526,315件：2018年)。

歯科法医学者 Sang-Seob Lee 先生 (NFS Medical Examiner's Office 個人識別部門；当時) のご高配により個人識別の体制を中心に視察の機会を得た。2016年(2016年11月23日～11月25日) および2017年(2017年10月29日～11月1日) の視察では歯科法医学担当者がいる Medical Examiner's Office、本部およびソウル支部を見学させていただいた。韓国には実際に個人識別を担当する専門の歯科法医学者は大学あるいはNFSの所属で6名(2017年当時) 存在し、各地の事例はそのエリアをカバーする歯科法医学者の下に集められて検査を実施していた。2014年6月のセウォル号沈没事故の際も、この6名が歯科的個人識別を担当したとのことだった。なお、この歯科法医学の専門家の下にレジデントや研修生という形で検査に係る歯科医師も存在するようだが、正式な担当者は限られた人数(6名) しかいないとのことである。

NFS本部入り口にはミュージアムやパネル展示があり、韓国の死因究明やNFSの歴史や役割の概要が説明されていた。本部では実際に歯科法医学担当者が所見を採取しているところも見学させていただいた。もちろん、歯科エックス線撮影や研磨標本作製のための設備もあった。

また、ソウル支部では複顔を専門として研究を続けている歯科法医学者の方に実際に使用している複顔のためのソフトウェアを紹介していただいた。解剖中であったため写真は撮影できなかったが、ソウル支部の広い解剖室には複数の解剖台が整然と並べられ半2階の見学室からガラス越しに見学できるようになっておりドラマに登場するような立派な設備であった。

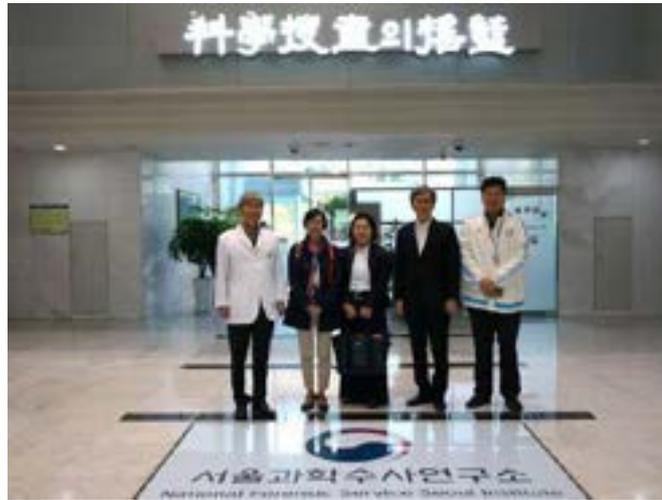
当時のNFSにはLee先生を含め3名の歯科法医学者が業務にあたっていた。採取時の歯科所見はICPOの書式を簡略化した様式にメモをし、最終的には歯科以外の所見も含めてICPOのシステムから韓国が独自に開発したMass ID Manager (MIM)という個人識別システムソフトで管理されている。

視察を通し韓国と同じシステムが日本に適応できるかどうかという議論は別にして、死因究明および個人識別の専門家の組織を国として備え指示系統が共有されている点は日本でも見習う必要があると実感した。

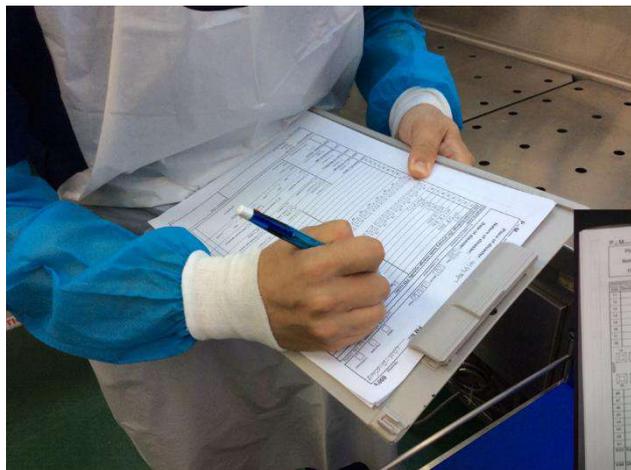
(余談) 帰路に利用した空港までの鉄道構内には防毒マスクが設置されており、日本との違いに驚いた。



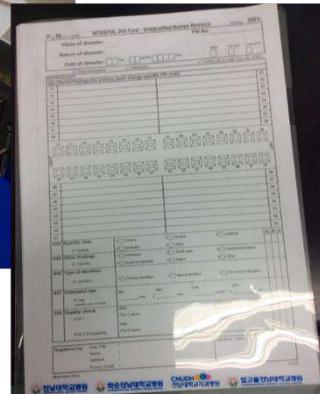
NFS での斉藤氏及び石井氏 (2016 年)



NFS での熊谷氏及び岡氏 (2017 年)



NFS での歯科所見採取



鉄道構内に設置された防毒マスク

### 3-2. 米国：New York, The Office of Chief Medical Examiner (OCME)

2018年2月2日 参加者：熊谷章子

年間5,000件の検死に対応するアメリカ最大のニューヨーク市OCMEの、剖検室、法医人類学研究室、そしてDNAビルの法科学生物学研究所を視察した。アメリカではニューメキシコ州以外は基本的に法医解剖を大学ではなくMEで行っている。毎日複数の遺体がOCMEにも搬入され、すべての調査が専門家によって行われる。残念ながら、当日OCMEの法歯学者は不在であったが、アメリカ同時多発テロ以降に凄まじく発展したというDNA型検査の最先端技術を見学することができた。



OCMEの剖検室を備えたビル OCMEのDNAビル 法科学生物学研究所視察の様子

### 3-3. CIDEM (International Congress of Mass Disaster) 2019年8月25日

会場：Feira de Santana, Bahia, Brazil

参加者数：約1,500名(地元警察、消防、軍隊、医療関係者など65機関)

参加者：熊谷章子

ブラジルのCIDEMプロジェクトによって、7つのシーンを想定した大規模な災害対応訓練が行われ、そのオブザーバーとして参加した。災害犠牲者対応訓練(Disaster Victim Identification: DVI)ではプレイヤーとして、8か国という多国籍のテンポラリーチームメンバーとなり、全員の共通語が存在しないなか、INTERPOLプロトコルに則って作業を行った。世界標準の方法によって最終的には十分な死後記録が作成できることを痛感した。



訓練前日の学術集会



化学物質汚染対応訓練



爆弾テロ対応訓練



傷病者対応訓練



犠牲者対応訓練



8 か国による DVI チーム



歯科的死後記録採取



犠牲者対応訓練参加者の皆様

### 3-4. タイ：チェンマイ大学法医学教室&法務省法科学研究所個人識別部門 2020年1月15日～17日 参加者： 齊藤久子、勝村聖子

2004年12月のスマトラ島沖地震でのタイの死亡者数は5,395名で、2005年3月時点では、タイ人1,939名、外国人1,953名、国籍不明1,503名、その後、5,026名の身元は判明したが、2019年12月時点で369名は身元不明のままである。チェンマイ大学では、多職種参加型の法医学セミナー及び災害訓練を実施し、災害対応の準備を日頃から行っていた。また、法務省法科学研究所には個人識別部門が設置され、平時及び有事における身元判明率の向上に取り組んでいた。また、災害時に適用される新法律の成立や改訂なども行われていた。タイの今後の課題としては、スマトラ島沖地震から16年経過し、震災を経験していない世代にどう伝えるのか、人材育成をどうすべきなのか、などとなっており、これは今後の日本が背負う課題と共通するものであった。本視察を通じて、大規模災害時の経験やその後の取り組みなどは、国境を越えて共有していくべきであることを改めて痛感した。



2020年1月16日 海外交流法医学セミナー



チェンマイ大学災害机上訓練風景

## 第4章 セミナー or シンポジウム

- 4-1. 2016年5月13日：第1回JUMP企画セミナー  
東京医科歯科大学
- 4-2. 2016年8月24日：第58回歯科基礎医学会サテライトシンポジウム  
札幌コンベンションセンター
- 4-3. 2017年1月8日：第2回JUMP企画セミナー  
東京八重洲ホール
- 4-4. 2017年10月22日：JUMP・鶴見大学先制医療研究センターシンポジウム  
鶴見大学 学生会館地下1階 メインホール
- 4-5. 2018年3月18日：災害時身元確認研修セミナー  
広島大学歯学部大講義室
- 4-6. 2018年6月2日：国際的大規模災害セミナー（JUMP協賛）  
岩手医科大学循環器医療センター9階第1講義室
- 4-7. 2019年3月3日：JUMPワークショップ  
東京八重洲ホール
- 4-8. 2019年3月17日：死因究明教育研究センターセミナー（第2部）  
広島大学歯学部大講義室
- 4-9. 2019年6月15日 Dental Age Estimation Workshop  
東北大学大学院歯学研究科 臨床研究棟1階 C1セミナー室
- 4-10. 2019年8月10日第73回MEDC医学教育セミナーとワークショップ  
愛知学院大学楠本キャンパス
- 4-11. 2020年1月12日 JUMP・鶴見大学先制医療研究センターシンポジウム  
鶴見大学記念館ホール
- 4-12. 2021年2月21日 JUMP・鶴見大学公共医科学研究センターシンポジウム  
Zoom 配信

**4-1 第1回 JUMP 企画セミナー：2016年5月13日**  
**会場：東京医科歯科大学 歯科棟南 4F 特別講堂**  
**参加者数：約 45 名**

**主な参加者：法医学及び法歯学の教官及び大学院生など**

JUMP 設立後、初めてのセミナー開催であった。座長は、東京医科歯科大学歯学部法歯学分野の櫻田教授で、参加者は、法医学及び法歯学の医師、歯科医師が多く、学生さんは少ない会であったが、活発な討論が行われた。その後、JUMP は、セミナーやシンポジウムを開催していくこととなるが、最初の記念すべきセミナーであった。



JUMP メンバーと櫻田教授（東京医科歯科大）



セミナー参加者風景

**4-2. 第58回歯科基礎医学会サテライトシンポジウム：2016年8月24日**  
**会場：札幌コンベンションセンター**  
**参加者数：約 50 名**

**主な参加者：学会参加の歯学部教官、大学院生、歯科医師など**

2016年の夏は台風の日本上陸が多く、その間で無事に開催されたシンポジウムであった。前日の夜、斉藤の宿泊ホテルの和室に、メンバーで集まって予演を行ったのも良い思い出である。東北大学歯学部長の佐々木啓一先生に、「大規模災害における身元確認：歯科界の対応」をご講演していただいたが、東日本大震災時の客観的なデータや被災県ならではの苦労話など、歯科基礎医学会の会員のための貴重なシンポジウムであると同時に、私達にとっても貴重で有意義な時間であった。



JUMP メンバーと佐々木教授（東北大）



セミナー参加者風景

#### 4-3. 第2回 JUMP 企画セミナー：2017年1月8日

会場：東京八重洲ホール

参加者数：約40名

主な参加者：歯科法医学者、警察歯科医、歯学部大学院生など

大変寒い雨の日にもかかわらず、約40名の方々が東京駅近くの会場に集まってくださった。韓国の歯科法医学者である Sang-Seob Lee 先生から韓国の身元確認システムについて、熊谷氏からベルギーで発生したブリュッセル連続テロ事件における身元確認対応についてご講演いただいた。その後、参加者の皆様とたっぷりディスカッションを行ったが、あっという間の1時間であった。



熊谷氏、Sang-Seob Lee 先生(韓国)、山村先生(通訳) セミナー参加者風景

#### 4-4. JUMP&鶴見大学先制医療研究センター共催シンポジウム

：2017年10月22日

会場：鶴見大学 大学会館地下1階メインホール

参加者数：約30名 主な参加者：医師・歯科医師・地域自治体等

「次の大規模災害にどう立ち向かうか～様々な職種からの提言～」と題し、東日本大震災の遺体安置所での活動を振り返り、今後に向けた活動を考える場として開催した。多職種連携の重要性を意識した身元確認訓練を平時より実施する必要性に続き、「行政の立場から」「警察の立場から」「葬祭業の立場から」「医師の立場から」「歯科医師の立場から」の5名のシンポジストが講演した(ポスター参照)。当日は台風が直撃する悪天候の中、熱い意見交換の場となった。また、シンポジウムに先立ち、午前中には JUMP 主催の個人識別研修会を実施し、サポーター、学生サポーターが参加し、盛会に終わった。



研修会参加の歯学部生



シンポジスト及びディスカッション風景

**4-5. 災害時身元確認研修セミナー：2018年3月18日**

会場：広島大学歯学部大講義室

参加者数：約30名

主な参加者：歯科医師会歯科医師、大学院生、学部学生など

JUMP メンバーを中心とした支援の下、広島大学医歯薬保健学研究科（現・医系科学研究科）附属死因究明教育研究センターの災害時身元確認研修セミナーが実施された。講演では、熊谷氏が「東日本大震災の経験から－専門職同士の連携、他地域からの応援との連携－」と題して、岩手県での東日本大震災の経験を中心に専門職同士の連携や現地と応援者の連携についてお話しされた。



講演中の熊谷氏



参加者の広島大学歯学部生

**4-6. 国際的大規模災害セミナー：2018年6月2日**

会場：岩手医科大学循環器医療センター9階第1講義室

参加者数：28名

主な参加者：岩手県県庁職員、警察、消防、法医病理医、法医歯科医、大学院生など

2019年ラグビーW杯開催スタジアムのある岩手に、ブラジルから Marques Jeidson 先生（Universidade Estadual de Feira de Santana, Brazil）をお迎えし、サッカーW杯やオリンピック・パラリンピックを経験したブラジルでの、イベント会場で発生した大規模災害への対応訓練についてご講演いただいた。多職種から来場した参加者にとって、翌年に開催されたラグビーW杯への準備のための非常に有意義なセミナーとなった。



Marques Jeidson 先生



JUMPより感謝状贈呈



セミナー参加者の皆様

#### 4-7. JUMP ワークショップ：2019年3月3日

会場：東京八重洲ホール 参加者数：約 30 名

主な参加者：メンバー及びサポーターのみ

「今、あらためて考える訓練の重要性」と題された本ワークショップの目的は、「震災後に多くの機関で実施されるようになった机上訓練、実動訓練について再考してみよう」という企画であった。最初に、岡山県警察歯科医である横見由貴夫先生に「岡山県警察歯科医会と後方支援活動について」という内容で、特別講演を行っていただいた。その後は、若手チームとベテランチームに分かれて、机上訓練についてのディスカッションを実施し、各チームで話し合った内容をご紹介いただいた。ワークショップ後は、みんなで和気あいあいと懇親会を行い、「ますます、団結力が高まったぞ～」と思える会であった。



横見由貴夫先生（岡山県警察歯科医）



参加者の皆様

#### 4-8. 死因究明教育研究センターセミナー（第2部）：2019年3月17日

会場：広島大学歯学部大講義室

参加者数：30名

主な参加者：医師、歯科医師、警察官、海上保安官、学部学生など

2018年に引き続き JUMP メンバーを中心とした支援の下、広島大学医歯薬保健学研究所（現・医系科学研究科）附属死因究明教育研究センターで災害犠牲者身元確認をテーマとしたセミナーが実施された。講演では、日本歯科大学生命歯学部歯科法医学講座の都築民幸教授が、「災害時の歯科的個人識別—スクリーニングとマッチングを峻別する—」という講演タイトルで、歯科的個人識別におけるスクリーニングとマッチングの意義と方法、歯科的個人識別における画像情報の重要性について分かりやすくお話しいただいた。



講演中の都築教授（日本歯科大）



セミナー参加者風景

#### 4-9. Dental Age Estimation Workshop : 2019年6月15日

会場：東北大学大学院歯学研究科 臨床研究棟1階 C1 セミナー室

参加者数：35名

主な参加者：法医病理医、法医歯科医、大学院生など

イタリアから Cameriere Roberto 先生 (AgEstimation Project, Macerata, Italy) をお迎えし、エックス線画像を利用した法医・法歯学的年齢推定方法に関するワークショップを開催、日本国内のみならず、シンガポールやインドネシアからもご参加いただいた。講師が提案する小児と成人を対象とした年齢推定方法が紹介され、加えて参加者各自が持参したPCを使用したハンズオンも行われ、非常に充実した内容のワークショップとなった。



前日の懇親会



Cameriere Roberto 先生 (イタリア)



参加者の皆様

#### 4-10. 第73回MEDC医学教育セミナーとワークショップ : 2019年8月10日

会場：愛知学院歯学部 参加者数：10名

主な参加者：医師、歯科医師、歯科技工士

ミニレクチャー

1. 「災害医学・災害歯学教育(?)の現状」 広島大学 岡広子氏
2. 「他職種連携の災害犠牲者身元確認」 千葉大学 斉藤久子氏
3. 「専門職としての使命と連携、心のケア」 鶴見大学 勝村聖子氏
4. 「学生を対象とした災害時病院初動対応実習」 岩手医科大学 熊谷章子氏

ワークショップには、医学・歯学教育に関連して医学、歯学、薬学、コミュニケーション学等、多分野から参加があった。当日は4題のミニレクチャーに続いてグループワークを行ったが、グループメンバーそれぞれの職種の役割と災害時の連携や必要な態度・知識・技術を考える良い機会となった。



グループワークの先生方と岡広子氏



参加者の先生方とディスカッション中

#### 4-11. JUMP・鶴見大学先制医療研究センターシンポジウム:2020年1月12日

会場：鶴見大学

参加者数：約 30 名

主な参加者：医師・歯科医師・警察官・法医学者等

「大規模災害における多角的視点を養う～東日本大震災から9年目を迎えて～」と題し、開催された。冒頭、JUMPの齊藤氏がJUMPの活動について紹介した。続く講演では、フジテレビ「監察医朝顔」プロデューサーの金城綾香氏、防衛医科大学校 准教授の秋富慎司先生、鶴見大学副学長の佐藤慶太先生にご登壇いただき、それぞれの立場から見る災害・犠牲者・身元確認といった内容についてお話しいただいた（ポスター参照）。ディスカッションおよび懇親会の場では、職種を越えて盛り上がり「顔の見える関係」「平時からの連携」といった多職種重要性を改めて実感した。



シンポジスト3名の先生方と座長齊藤氏



意見交換会風景

#### 4-12. オンラインシンポジウム：2021年2月21日

会場：鶴見大学会議室 オンライン（Zoom）配信

参加者数：約 40 名

主な参加者：歯科医師、医師、大学院生、歯学部生等

本シンポジウムは、コロナ禍のため、JUMP初のオンライン配信となった。タイのチェンマイ大学副学長 Pongruk Sribanditmongkol 先生からは、2004年スマトラ島沖地震時の災害対応やその後の取り組みについて、臨床宗教師である高橋先生からは、東日本大震災時におけるグリーフケアについて、最後に、鶴見大学副学長佐藤先生からは、死因究明に関する新しい法律や歯学部における人材育成についてご講演していただいた。また、このシンポジウムで、JUMP代表が齊藤氏から熊谷氏へ引き継がれることが伝えられた。



Pongruk Sribanditmongkol 先生（タイ）



高橋先生と JUMP メンバー

## 第5章 サポーターからの寄稿

「JUMP 報告書～5年間の活動記録～に寄せて」

千葉県歯科医師会警察歯科医会  
副会長 大森 基夫

JUMP 設立後 5 年間の様々な活動に敬意を表するとともに機会を得て個人サポーターとして参加させていただいた立場から今後の期待も込めて述べたいと思います。

昨年までの 5 年計画で見ると企画良し、活動良しですが、あとは思いを同じにする人と組織にいかに広げるかが成果良しに繋がるのではないのでしょうか。

JUMP 設立の目的である「日本から身元不明遺体を減らす」ためにも必要なことです。

私は日常的には警察嘱託歯科医として身元不明死体の検死業務に携わっていますが、迅速で正確な身元確認のためには多くの関係者の協力が欠かせません。

最近、大規模災害時での多数遺体発生を想定した「多職種連携」が叫ばれ、JUMP 企画による机上訓練も行われています。

この多職種連携は災害時のみでなく、日常事案においても警察からは推定死者のかかりつけ歯科医探しと歯科診療記録の入手、診療歯科医からは不明な診療内容の説明、大学の法歯科医からは解剖時の詳細な画像情報提供等ワンチームの業務です。

問題は有力な情報源である歯科診療記録が紙カルテから電子カルテに変わり、エックス線画像のデジタル化も進み、警察が入手する受領媒体が多岐にわたってきたことです。

多職種連携は他職種理解でもあるので必要なことですが、理解で終わらせるのではなく、利用も伴う他職種利用をお互いに取り入れてこそ生きるものだと思います。

そこで身元不明遺体をどうしたら減らせるかでなく、何故減らないかを考える必要があります。減らせる手段の前に減らない理由があるように感じます。

Project 2（平時）の調査を基にその要因を掴み、減らない現状に危機感を共有する人と組織を結集してその先頭に JUMP が立つことを期待します。

## 「顔の見える繋がり」

香川県坂出市 宮崎歯科医院  
宮崎 芳樹

私が JUMP を知ったのは、2016 年、香川県歯科医師会で行われた身元確認研修会に講師として来てくださった齋藤先生の講演を聞いた時だった。その頃、特にそういう役職についていたわけでもない一開業医の私が、個人的な興味で歯科としての災害対策を学ぼうとしていた時に、JUMP のような団体の存在は新鮮であった。講演が終わったその場で齋藤先生にお願いし、個人サポーターとなったのはもう懐かしい記憶である。

以来、いくつかの講演やシンポジウム等に参加させていただき、歯科だから出来る事、歯科医師こそがやらねばならない事を多々学ぶ事ができた。研修以外の部分による楽しい記憶の方が濃いような気はするけれど。

どんな人が、どんな場所で、どんな事をしているのか。それを知っているのと知らないのでは、連絡一つから得られる情報も変わってくる。その少しの差が、災害時、有事の際には貴重な情報でもあり、ほんの少しの支えにもなるかもしれない。顔が見える繋がり、災害時には大事なのではないかと、ずっと思っている。

コロナ禍による断絶で、当たり前のようにあった楽しさは奪われ、封じられた。人間は記号ではない。不要不急と言われるものが、どれだけ大事なものだっただのか、痛感することになった。それでもまだ、JUMP の活動を通して出会った人々の顔は誰一人見えなくなっていない。出来ない事が多い時、どうすればいいのか考える。これも訓練なのかもしれない。

JUMP 5 周年、おめでとうございます。これからも、末席ながら活動に参加させていただき、顔の見える繋がりを増やしていけたら幸いに思います。ちなみに、顔は見えるが名前が出てこない事はありますので、そこはまあ・・・ほら・・・仕方がないんですよ、人間ですから。

## 「～開業医での臨床研修～」

秋田県秋田市 あいば歯科医院 研修医  
山下 直行

私は法歯学の分野で働くことを目指して歯学部に入りました。母校である新潟大学には法歯学の研究室は無かったのですが、私の入学当時は山内先生が法医学講座の教授を、高塚先生が准教授をされており、お二人のご厚意により法医学の研究室に出入りして解剖も見学させていただきました。あつという間の6年間であったと思います。

私は以前別の大学を卒業して4年間会社勤めをしていたので、自分の年齢を考えたとき、卒業後の研修を終えたらすぐにでも法歯学の道に進もうとも考えていました。しかしながら、解剖室で身元鑑定のための歯科所見採取をした時に、教科書的な話ができるがなぜその治療がされたのかを臨床からの目線では答えられないことに気づきました。そこで今まで回り道をしてきたのだからもう少し位寄り道して数年間臨床を経験してみようと一般開業医での研修を選びました。幸い現在の指導医にもそのことを理解していただき、いずれは法歯学の道に進むことを前提に修行させていただけることになりました。

私の研修先であるあいば歯科医院は一般歯科、口腔外科、矯正、小児歯科を行っていますが、中でもインプラント件数は東北内でかなり多いほうであり、他院でインプラントをされた方も多く来院され、様々な症例を見ることができます。形状によってはX線写真を見ただけでオペされた先生の所属するグループや、いつ頃インプラントされたかまでわかる場合があります。

このようなことを考えると、研修が終わってからすぐに法医学や法歯学のできる大学院に進学するよりも数年間の臨床経験を積むことが、一見寄り道であり遠回りかもしれないですが、将来法歯学の道に進んだ時に大きく役立つかもしれません。近道や短距離がいつもベストというわけではないのかと思っています。

修行を終えて新潟に帰った時にこの経験が大きな財産になったと思えるようにするためにも頑張ってください。

「出来ることをやろう！そして出来ることを増やそう」

東京都歯科医院勤務  
(新宿区新型コロナ相談員)  
辰巳 由里子

私も原点は、ボランティア元年と言われる「阪神・淡路大震災」かと思います。当時は確かまだ研修医だったでしょうか、自分は何も出来ず、ただただ、テレビでの映像に圧倒されるだけでした。

ですので、10年前に東日本大地震が起きた時には、阪神・淡路の時に何も出来なかった悔しさが思い出され、幸いバイト生活だったこともあり、何度も被災地に通いました。もう大学などに所属しておらず、町医者に勤務していたために歯科医師としてのお手伝いは何もできませんでしたが、ガレキ撤去などのボランティアなら、とできることを探してバイトの合間をぬって夜行バスで通いました。

ただ、数ヶ月すると流石に身体が保たなくなり、その後は都内に居ながらできる「写真洗浄」のボランティアをさせていただきました。

そしてある日、久し振りに行った母校で見かけたポスターで JUMP の活動を知りました。「これなら今度こそ歯科医師として災害時に役に立てる！」と思いました。震災時には、ご遺体の多さに歯科医師が疲弊していると聞いていたので、少しでもお手伝いできればと思いました。

まだ実地訓練も出来ていませんので今、災害が起こってもどのくらいお役に立てるかわかりませんが、JUMP に居ればきっと何かのお役に立てると信じております。

これから、もっと経験値を上げて「使える歯科医師」になりたいと思いますので、各地の訓練などのお手伝いでも借り出していただければ、と思います。よろしくお願い致します。

## 「非常時のすゝめ」

愛知県常滑市 I Dental Clinic 勤務医  
十川 視

JUMP セミナーを通して 私が 4 年前に初めて参加した JUMP セミナーで学んだことは 歯科医師として臨床にあたる場では触れる機会のほとんどない貴重なものでした。これまで日本で起きた大規模災害の歴史や、そして実際に被災地での身元確認作業に当たられた先生方のお話から被災地での個人識別業務に必要な器具や装備、またその後の生前カルテとの照合方法について具体的に学ぶことができました。何よりも大切だと感じたことは、被災地では大学や歯科医院のような機材や人材が整った環境で個人識別の作業ができるわけではなく、電気やエアコンもない状況で感染対策を行いながら効率的に個人識別を進めるための事前準備でした。被災地にむかう際に準備したもの、実際に使用してみてもうたかなどその時の状況を聞きながらシミュレーションを行う机上訓練は大変有意義なものとなりました。今年はコロナの影響で JUMP セミナーが動画配信で開催され、対面での参加ができないことは残念ではありましたが、このセミナーが場所時間に関わらず視聴できることは将来大変役立つのではないかと感じました。東日本大震災の際には個人識別のために一般診療に従事している歯科医師のなかにも被災地におもむいた方がいたという記事を目にしたことがあります。その記事を読んだとき、普段遺体に触れる機会のない人は被災地での仕事や装備についてどのように準備するのだろうかという疑問に感じました。非日常な環境で何が必要か、想像がつかないかもしれません。そのような場合に今回配信された被災地での装備や準備に関する動画がアーカイブで残されていれば準備資料として非常に有益だと感じました。また、セミナーの中ではコロナウイルスの感染以外にも近年感染が増加している結核や梅毒への感染リスクについてのお話もあり、特定のウイルス以外の細菌ウイルスに対して普段診療をしていると気が緩みがちなから感染対策を忘れてはならないということを再認識することができました。1985 年日航機墜落事故、1995 年阪神・淡路大震災、2011 年東日本大震災が起こり、その後も日本各地で地震や水害などの自然災害が続いています。今後個人識別が必要とされるような大きな災害が起きたときに備えられるよう、これからも JUMP の活動を通して学んでいきたいと考えています。

## 「JUMP 設立 5 周年を迎えて」

アリッド株式会社 代表取締役  
愛知学院大学未来口腔医療研究センター 研究員  
堀 直介

まず初めに、JUMP 設立 5 周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

また本年は、未曾有の被害をもたらした東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の発生から 10 年の節目でもあります。2015 年 10 月の JUMP 設立直後である翌年 4 月には熊本地震が発生し、今日に至るまでに大小問わず、地震や豪雨被害など多くの自然災害が発生しました。いかに我が国が自然災害の発生しやすい特徴を有しているかを認識せざるを得ません。

更に昨今は COVID-19 の世界的感染拡大により、地震や水害などへの国民の関心が薄れているのではないかと危惧されます。南海トラフ巨大地震や首都直下型地震の発生が予見されている中、本来であればそうした大規模災害に対する関心を更に高めなければならない状況下であるにも関わらず、さまざまな対外的活動を制限せざるを得ない状況です。

そのような状況下においても、JUMP メンバーの先生方は意欲的に活動をされています。2020 年 11 月に開催された JUMP 災害机上訓練では、YouTube によるライブ配信を試みられました。感染症が蔓延する中での災害発生という状況を想定した訓練内容は、今まさに必要とされる大変有益な内容であったと思います。また配信内容は YouTube というソーシャルメディアで引き続き公開されており、いつでも誰でも視聴できます。こうした貴重な情報資産の公開は、JUMP の活動における大きな社会貢献の一つであると思います。

JUMP 設立から 5 年に渡って代表を務められました斉藤久子先生は、初めてお会いした当初から、これからの災害対策や身元不明者特定においては多職種連携やデジタル化が重要であると説かれていました。ソーシャルディスタンスやリモートワークが急速に推奨されるようになった現在を鑑みると、まさに先見の明であると感じます。また JUMP の活動においても、東日本大震災での経験を記された書籍の出版、一般市民も参加できるシンポジウムの開催、メディアへの出演など、この 5 年間さまざまな活動に尽力下さいました。まさに JUMP の骨格を形成されたと思います。サポーターの一人として、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

次期代表を務められる熊谷章子先生とは日本法歯科医学会第 13 回学術大会で初めてお会いし、私が学術発表を行う際には座長の労を賜りました。またその後の懇親会では JUMP メンバーの先生方を一人ひとり丁寧に紹介下さり、私が JUMP サポーターとなる切っ掛けを与えて下さいました。熊谷先生は同学会第 14 回学術大会で大会長を務められ、コロナ禍において世間が混乱する中、感染症対策を徹底して開催に踏み切られました。本文を執筆している現在に至るまで、あれほどまでに感染症対策を徹底した見事な開催を他に知り得ません。大会長として相当の覚悟と重圧だったと存じますが、その熊谷先生の決断力と実行力は、これからの JUMP の活動に多大なる力を与えるものと確信しています。

JUMP メンバーの先生方は東日本大震災でのご遺体の身元確認作業に従事され、平時も第一線で活躍されております。また大学などの垣根を越えた、女性歯科医師で構成されています。そういった組織は他に類をみません。COVID-19 の世界的感染拡大という災害下にある現在、身元確認という活動の発展に尽力する JUMP のような存在は、ますます必要とされるでしょう。私は JUMP のサポーターであることを誇らしく感じております。末筆ながら、JUMP の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

## 「もう一度足元を見つめ直そう」

岩手医科大学医学部法医学講座  
前教授 出羽 厚二

東日本大震災から10年、専門的な指摘は他の方に譲るとして、私はもう一度自身の足元を見直すことを提案したい。

災害時に出勤することだけを想定し、「自分が救助・援助される側に回る」ことは失念していないだろうか。その備えはなされているだろうか。

仮に、自身と家族が無事だったとしても、出勤できる準備は十分であろうか。不安を抱える家族(子供と老人)を残して数日間家を留守にできるだけ環境は整っているであろうか。こう考えると、かなり高いレベルでの準備が要求される。

細かいところを見直す一例として懐中電灯の準備はどうだろうか。自治体等の災害マニュアル(飽きれるほど役に立たない)は準備する品目にただ「懐中電灯」と箇条書きしているだけである。だが、懐中電灯の種類は豊富である。具体的に考えてみよう。一般的な手持ち式のものには1人に1個、1部屋に1個以上は欲しい。1部屋と言うのは、浴室とトイレも含める。用意してあるだろうか。浴室で髪を洗っている時に突然停電する事態を想像して欲しい。マンション、アパートの浴室は真っ暗闇になる。当然裸で、更衣場所では鏡等が割れているかもしれない。対処のために防水式の懐中電灯を浴室に常備して欲しい。次に懐中電灯1個ずつに蓄光テープを巻く。これで暗闇でも容易に見つかる(あくまで「蓄光」なので直前まで明るいときに光る)。スマホで緊急地震速報の音を流してから風呂場の電気を突然消すと「良い」訓練になる。家人に対してこの抜き打ち訓練を行ったら3回目には酷く怒られた。家庭内訓練は「やりすぎると危険」であるという貴重な教訓が得られた。是非追試されたい。電池式のランタンは人が集まるところに最適である。柔らかい光は心理的にも安心感を与えてくれる。手元で作業することを考えるとヘッドライト式やペンダント式のもので両手を空ける事を考えてもらいたい。実は暗所での用便時にとても便利である。小さいキーホルダータイプの懐中電灯は日常携行して貰いたい。スマホの懐中電灯アプリは便利であるが、災害時は命綱のスマホのバッテリー消費は避けたい。あくまで、手近な懐中電灯に到達するまでのショートリリーフ役である。手回し発電するものやソーラータイプのものは電池切れを心配しないでよい。懐中電灯ではないが蛍光の発光灯(コンサートで振るキャンドル)は階段やトイレに置くとその存在場所を知らせてくれる。蠟燭と違って発熱しないので便利である。

懐中電灯を数個用意する事は「多重的」、種類を変えて用意することは「複合的」と言えよう。いわゆる多重的・複合的防御である。あとは電池をローリングストックすれば及第点と言えるだろう。「万全を期す」という言葉は思考停止に陥るから今後は使うのは止めよう。万全なんてない。まだまだ改善の余地はある。

細かい話をさせて頂いたが「神は細部に宿る」まず細かい想定と訓練をしてみよう。足元固めよう。先はまだまだ長い。

## 第6章 おわりに

・勝村聖子 鶴見大学歯学部法医歯学 准教授

JUMP 発足から早くも5年が経ちました。大学や地域、法歯学という垣根を超えて様々な立場や職種の方々との出会いがあり、訓練やシンポジウムを通して視野が広がったように思います。少しずつですが私たちの活動も注目され、自費出版書籍の売り上げが伸びてきているのも嬉しいことです。斉藤先生はフジテレビ「月9ドラマ」出演も果たしました！

そして東日本大震災から10年、今では大学の学生たちも当時小学生。時代の流れを感じますが、その中には「被災しました」「知り合いが亡くなりました」という学生もいます。そして「当時歯科医師の活動なんて気にもしませんでした、講義を受けて歯科医師の仕事に誇りを感じました」と言ってくれる学生もいます。こういう子たちのために「私たちはきちんと経験を伝え、反省し、次世代に繋げていくべきなんだ」と学生から学び、実感しています。人材育成の責務も感じながら、皆様と共に今後も活動を続けていきたいと思えます。

・岡 広子 広島大学大学院医系科学研究科附属死因究明教育センター 特任講師

様々な災害や事故において行方不明者の身元を明らかにするために現地・遠隔地を問わずそれぞれに懸命に取り組んでいる人々の活動や支援は、関係者のみの思い出話になりがちです。私自身を振り返るとJUMPを介した繋がりがなければ、東日本大震災で感じた思いや日々の教訓は共有されることなく日常業務に埋もれてしまっていたかもしれません。一人でも多くの身元不明者が遺族のもとに帰ることができる社会を目指し、それぞれの活動や情報共有が途切れないようJUMPの取組みが世代を超えて継承されていくことを期待しています。

・小菅栄子 篠原歯科医院 院長

「JUMPに参加できて」

今まで5年間、JUMPリーダーとしての斉藤先生のご多大なるご尽力に感謝を申し上げます。たいへんお疲れ様でした。

長く闘病しており、何もできなかった5年間でしたが、闘病中はJUMPの活動報告を見て、元気と勇気をもたらしていました。体調も気力もすっかり回復したので、これからJUMPの一員として、自分に何ができるのかを考えていきたいと思えます。

女性の有志によって発足したJUMPの活動が、より多くの人から理解と支持が得られ、地域や世代や職種を超えた交流となり末永く続くことを祈念いたします。

・大林由美子 香川大学医学部歯科口腔外科学講座 准教授

2016年1月にJUMPミーティングで女性歯科医師9名に初めてお会いしました。それまで地元の香川大学で身元確認に携わっていましたが、JUMPで広く大きな視点が加わりました。また法医学・法歯学の分野で世界的にも活躍し、高い目標を持ち、女性活躍推進法を法律で決めなくても実践している仲間をみて、日々頭が下がる思いでいます。香川県で行われたJUMPの机上訓練では様々な団体との交渉や準備等にチームワークで乗り切り、名刺交換会ではJUMPの活動を香川県の身元確認に関連する様々な職種に知ってもらえたと感じております。今は皆さんに直接お会いすることが困難ではありますが、会うたびに奮い立つ何かが始まるような思いでいます。この活動の輪を大きくし、今後もJUMPの更なる飛躍に自分なりに寄与したいと思っています。

・熊谷章子 岩手医科大学法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 准教授

保守的な日本の中で、いったいわれわれに何ができるのだろう、という漠然とした不安を持ちながら始まった活動でした。振り返ると、多くの方々にご協力いただきながら行った様々な企画を通して、少しずつではありますが賛同者が増えてきていることを実感しています。加えて、これからもっと活動の場を広げ、啓発しなくてはいけないことが沢山あることも痛感しています。JUMPのこれまでの5年間の努力が無駄とにならないように、これからもメンバーと共に知識をアップデートし続け、サポーターの皆様を支えられながら、さらに成長しなくてはなりません。10年前、5年前と変わらない安定を求めてはいけないと思っています。周りに追いつくまでにはまだまだ時間がかかるかもしれませんが、着実に前へ進めるチームであることを維持してゆきます。

・斉藤久子 千葉大学大学院医学研究院法医学教室 准教授

JUMP設立から無事に5年が経過し、自分なりに頑張ってきたと思うこともあれば、なんて怠けてしまったんだろうと嘆く日もあります。たとえどんな日を過ごしたとしても、その日は終わっていきます。どれほどの日にちが過ぎたとしても、私は、東日本大震災時の遺体安置所での出来事を忘れたくありません。その想いを忘れずに前進していくには、一人では不可能で、想いを共にする仲間が必要でした。その仲間は、現在のメンバーであり、サポーターの皆様になります。ありきたりの言葉ですが、「初心忘るべからず」をモットーに、次期代表である熊谷先生をサポートして、日本が災害に強い国と変わるべく、活動したいと考えております。今後も温かいご支援をお願いいたします。

## <謝 辞>

JUMP は、個人サポーター、学生サポーター及び団体サポーターの方々のご支援を賜り、さまざまな活動を実施できております。また、JUMP の趣旨をご理解いただき、民間助成金も採択されました。ここに、改めて、サポーターの皆様方と助成して下さった民間団体様に心より感謝申し上げます。

### ☆サポーターリスト (2021年3月時点)

櫻田宏一様、佐藤慶太様、吉田 格様、辰己由里子様、安部寛子様、  
斉藤たか子様、斉藤裕子様、大森基夫様、中山修一様、高橋千明様、  
林 亨二様、平賀 努様、三枝富司夫様、堤 正広様、大越 学様、  
大川勝紀様、内田啓二様、木下善隆様、菅谷裕行様、石井名実子様、  
田中国継様、鈴木善久様、宮崎芳樹様、柳川忠廣様、山口里恵様、  
溝上淳子様、山村恵子様、松尾裕之様、浅見瑠璃様、鈴木敏彦様、  
小坂 萌様、波田野悠夏様、出羽厚二様、藤田さちこ様、鮎澤敬介様、  
加納晃嗣様、大塚沙緒里様、壽美 望様、遠山皓基様、山下直行様、  
内田瑤子様、針ヶ谷紘子様、十川 視様、出羽 希様、堀 直介様

### ☆団体サポーターリスト (2021年3月時点)

千葉大学医学部法医学教室様、一般社団法人千葉県歯科医師会様、  
公益社団法人香川県歯科医師会様

### ★助成金リスト (2021年3月時点)

- ・ファイザーヘルスリサーチ第25回(2016年度)国内共同研究助成金 代表者：斉藤氏  
「日本における DVI システム構築への取り組み」112 万円(2016年12月～2017年11月)
- ・公益財団法人村田学術振興財団第34回平成30年(2018)度研究助成金 代表者：岡氏  
「国際社会における日本の災害犠牲者身元確認体制の構築  
ー現状比較と合同机上訓練による検証ー」120 万円(2018年4月～2019年6月)
- ・2018年度韓昌祐・哲文化財団 代表者：熊谷氏  
100.5 万円(2019年4月～2021年3月)
- ・第50回(2019年度)三菱財団 代表者：斉藤氏  
「日本の大規模災害における身元確認システムーDVI(Disaster Victim Identification)ー  
体制構築のための事業」170 万円(2019年10月～2021年3月)

<付 録>

歯学生・歯科医師向け JUMP企画セミナー

今後の身元確認を考える

2016 5/13 (金) 17:30~

震災から5年  
身元確認作業に従事した歯科医師の声を未来へ

コーディネーター 東京歯科大学歯学部 高橋幸太郎 教授 櫻江真一

「歯科医師としてできること」 津村梨子 (東京大学歯学部歯学部)

「震災直後あの私が…」 佐藤真由美 (茨城県歯科医師会)

「過去の災害を振り返って」 辻野彰彦 (千葉大学歯学部歯学部)

「JUMP ～手探りの第一歩～」 高橋久子 (千葉大学歯学部歯学部)

開演 17:30~19:30 (17:00受付開始)  
場 所 東京医科歯科大学 歯科棟南4F  
特別講堂  
参加費 無料  
主催 JUMP  
Japanese Unidentified and Missing Persons Response Team

【お問合わせ】  
JUMP事務局  
千葉大学大学院歯学系附属205号教室  
TEL: 043-226-2078 FAX: 043-226-2079  
担当: 高橋・辻野



第58回 日本歯科大学  
歯科基礎医学学会学術大会

「災害大規模日本における身元確認を考える～歯科医師としての役割とは～」

2016年5月24日(土)・25日(日) 札幌コンベンションセンター

日 期: 5月24日(土) 14:20~16:00  
会 場: 札幌  
コーディネーター: 高橋久子 (千葉大 教授 法政)  
佐藤 真由美 (茨城県歯科医師会)

- 0511-1 「東京大学震災20周年記念特別講演を聴いて」  
津村 梨子 (東京大 医 歯科に勤務)
- 0511-2 「過去の災害において振り返られてきた歯科医師の役割に対する考察」  
高橋 幸彦 (千葉大 医 法政)
- 0511-3 「全ての歯科医師が歯科災害学士となる」  
津村 梨子 (東京大 医 法政)
- 0511-4 「大規模災害時にいかに身元確認」  
高橋 幸彦 (東京大 医 法政)

第2回 JUMP企画セミナー

海外の身元確認システムに学ぶ  
日本はどうすべきなのか

2017 1/8 (日)  
14:00~17:00

招待講演 Sang-Seob Lee 先生 (韓国)  
[Cases of dental identification in recent mass disasters and detail overview of dental module in MM (www.112.or.kr)]  
(原案提供: 東京大学歯学部 津村梨子先生)

教育講演 船谷 華子 先生 (ベルギー)  
「ベルギーの歯科法医学について」

開演 14:00~17:00  
受付 13:30~  
会場 東京八重洲ホール 902会議室  
参加費 500円  
懇親会 17:30~予定  
主催 JUMP Japanese Unidentified and Missing Persons Response Team



次の大規模災害にどう立ち向かうか  
～様々な職種からの提言～

平成29年10月22日(日) 13:00~17:00  
信長大学大学売部地下1階 メインホール  
(横浜市磯区磯野町1-10)

プログラム

- コーディネーター: 信長大学危機管理センター長 島崎 大祐
- 「事前防災に関わる歯学系職種について」 信長大学大学院歯学部歯学部 津村 梨子 先生
- 「消防の立場から」 消防本部消防総務課総務課長 大野 善典 先生
- 「警察の立場から」 警視庁警務部警務課総務課長 佐藤 誠一 先生
- 「救急車の立場から」 東京都救急医療情報センター長 佐藤 博 先生
- 「医師の立場から」 神奈川県立総合医療センター長 高橋 幸彦 先生
- 「歯科医師の立場から」 信長大学歯学部歯学部歯学部 津村 梨子 先生

入場料: 無料  
主催: 信長大学危機管理センター  
共催: JUMP (Japanese Unidentified and Missing Persons Response Team)



## 災害時身元確認研修セミナー

海外の多くが災害時に、インターネットやSNSなどの情報伝達手段が利用できず、災害発生後には身元確認が困難な場合があります。またインターネット、SNSなどのインターネットやSNSなどの情報伝達手段が利用できず、災害発生後には身元確認が困難な場合があります。

**日時** 平成30年3月18日(日) 10:00-12:30

**場所** 広島大学歯学部大講義室  
広島市東区基1-2-23 歯学部8階9号

---

**議題**

「震災日本大震災の経験から～専門協会の連携、地元からの応援との連携～」

広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻

---

**内容**

「インターネットの検索記録を利用したの軌上訓練」

広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻

申込締切 2月20日(水)

申込費 500円(個人参加者) 2000円(団体参加者)

申込先 広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻

TEL/FAX 082-257-1572  
E-mail: ak@ak@hiroshima-u.ac.jp

広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻  
JUMP (Japanese Unidentified and Missing Persons Response Team) 協賛

## 国際的大規模災害セミナー

講師  
Dr. Jeidson Marques  
Universidade Estadual de Feira de Santana, Brazil

**日時** 2018年6月2日(土)18時30分開講  
**場所** 岩手医科大学基礎部医療センター  
9階第1講義室

入場無料 逐次日本語通訳



ブラジルの法医学者で、テロリズム等による多数の大規模災害訓練を手掛けるMarques先生をご招待し、サッカーワールドカップ、リオデジャネイロオリンピックを経験したブラジルでの災害対策についてお話ししていただきます。ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック開催を控えた日本が、これから行うべきことを改めて考えよう。

問い合わせ 広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻  
TEL 019-637-5111 (7:00-5:00)



「インターネットの検索記録を利用したの軌上訓練」

**2019年3月3日(日)**

時間:13:30~16:30 (受付:13:00~)

会場:東京八重洲ホール 301 会議室

定額:500円(個人参加者) 2000円(団体参加者)

**今、あらためて考える  
訓練の重要性**

**特別講演**  
岡山県高知連合会 横井由貴夫先生  
岡山県警察 岡山県警察 岡山県警察

申込先 広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻  
TEL/FAX 082-257-1572  
E-mail: ak@ak@hiroshima-u.ac.jp

## 広島大学大学院 死因究明教育研究センターセミナー

**日時** 平成31年3月17日(日) 9:00-13:00

**場所** 広島大学歯学部大講義室  
広島市東区基1-2-23 歯学部8階9号

---

**第1部**

講演1 『子ども虐待防止における医療者の関わり』  
広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻  
岡山県立総合医療センター 岡山県立総合医療センター 岡山県立総合医療センター

講演2 『子どもの歯と口の発達』  
広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻  
岡山県立総合医療センター 岡山県立総合医療センター 岡山県立総合医療センター

---

**第2部**

講演3 『災害時の歯科救済』  
「スクリーニングとマッピングを確立する」  
広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻

実習『インターネットの検索記録を利用したの軌上訓練』  
講師 広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻  
実習 広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻

申込締切 2月20日(水)

申込先 広島大学大学院 歯学部歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻 歯学専攻  
TEL/FAX 082-257-1572  
E-mail: ak@ak@hiroshima-u.ac.jp



JUMP  
鶴見大学公共医科学研究センター  
主催

## 災害机上訓練

～遠体安置所内での感染症対策了に  
おける多職種連携活動～

**11月23日 14:00～16:00**

**オンライン配信**

感染症対策が重要となる中で災害時発生し、遠体安置所の設置が急務となり、対応することになった場合を想定します。「救護・搬送・搬入搬出」を行うまでの連携シナリオを想定し、知事府県下でこの連携がスムーズに機能し、対応が求められるための多職種連携のあり方を検討し、見えていきます。

 **JUMP 災害机上訓練**

**■1■**  
 会場：鶴見大学鶴見キャンパス 総合体育館  
 一般公開：14時～16時  
 観覧料：無料  
 申し込み：不要  
 申し込み先：鶴見大学 総合体育館 庶務課  
 〒105-8585 東京都港区芝浦4-2-1  
 TEL: 03-5561-8128 FAX: 03-5561-8129

**■2■**  
**2021年2月21日(日)午前**  
 シンポジウム  
 「東日本大震災から10年を迎えて  
 ～次世代へつなぐこと～」

お問い合わせ先：鶴見大学 学務課 庶務係  
 TEL: 045-593-8128 FAX: 045-593-8129

JUMP & 鶴見大学公共医科学研究センター主催

## JUMPシンポジウム

「東日本大震災から10年を迎えて  
～次世代へつなぐこと～」



**Prof. Dr. Pongruk Sribanditmongkol**  
 タイ・チェンマイ大学 医学長  
 "Mass Fatality management in tsunami victims in Thailand, 2004 : A lesson Learned"  
 (災害発生時)



**高橋 悦堂先生**  
 東北福祉大学 副学長 事務局長  
 「東日本大震災から  
 学ぶグリーフケア  
 ～宗教者の視えから～」



**佐藤 慶太先生**  
 鶴見大学 副学長  
 「被災者支援が  
 社会課題に変わる  
 こと」

**2021 (令和3) 年2月21日 (日)**  
**14時～16時 参加費無料**  
**オンライン開催 (Zoom使用)**

お申し込みいただいた方に、IDとパスワードをお送りします

お申し込み先：(1)内村(水)室にて、お問合せ先  
 〒105-8585 東京都港区芝浦4-2-1  
 TEL: 03-5561-8128 FAX: 03-5561-8129

(2)メールにてお申し込み  
 Email: jump@hse.ac.jp  
 TEL: 045-593-8128 FAX: 045-593-8129

JUMPシンポジウムは、第三者による著作権侵害・盗用等により実施されません。

## <学会発表>

- 2016年9月3日 第15回警察歯科医会全国大会（岐阜）：咲間氏発表  
「日航機墜落事故、阪神・淡路大震災、東日本大震災における  
「歯科所見による身元確認」の再検証」
- 2017年2月13日 第22回日本集団災害医学会（名古屋）：咲間氏発表  
「過去の災害における歯科身元確認の問題点」
- 2017年10月13日 第18回日本法医学会学術北日本地方集会（岩手）：勝村氏発表  
「ICPO式DVIを用いた身元確認訓練—多職種連携の机上訓練の試み—」
- 2017年10月28日 第86回日本法医学会学術関東地方集会（東京）：勝村氏発表  
「ICPO式フォーマットを用いたDVI机上訓練の試み—多職種連携の意義の考究—」
- 2017年11月18日 第11回日本法歯科医学会学術大会（千葉）：勝村氏発表  
「ICPO式DVIによる身元確認方法の検討—多職種連携の机上訓練を通して—」
- 2017年11月18日 第11回日本法歯科医学会学術大会（千葉）：岡氏発表  
「身元確認先進国における歯科の災害対応に関する調査報告」
- 2018年2月1日 「第23回日本集団災害医学会（横浜）：勝村氏発表  
「ICPO式DVIを用いた机上訓練の試み—多職種連携の意義を考究する—」
- 2018年7月28日 第37回日本歯科医学教育学会総会および学術大会（福島）：岡氏発表  
「歯学部学生を対象としたDVI机上訓練の試行とその評価」
- 2018年8月25日 第17回警察歯科医会全国大会（熊本）：勝村氏発表  
「ICPO式災害犠牲者身元確認法の検討  
～多職種連携訓練を通して見えてきた課題と展望～」
- 2018年9月30日 平成30年度 中国・四国地区歯科医学大会  
併催 第57回広島県歯科医学会 併催 第102回広島大学歯学会：岡氏発表  
「他職種との連携のための-DVI-机上訓練試行とその評価」

2018年10月20日 日本法歯科医学会第12回学術大会（千葉）：熊谷氏発表

「災害犠牲者歯科的個人識別照合ソフトウェアの比較」

2018年12月8日 第25回ファイザーヘルスリサーチフォーラム（東京）：斉藤氏発表

「日本におけるDVIシステム構築への取り組み」

2019年3月18日 第24回日本災害医学会総会・学術集会（鳥取）：熊谷氏発表

「International Congress in Mass Disaster への参加経験と

これからの日本災害対応について」

2019年7月19日 第38回日本歯科医学教育学会（福岡）：勝村氏発表

「多職種連携のDVI机上訓練の実施と歯科系参加者の評価」

2020年10月4日 日本法歯科医学会第14回学術大会（岩手）：斉藤氏発表

「タイにおける身元不明死体の個人識別に向けた取り組み」

2021年2月6日 第18回警察歯科医会全国大会（鹿児島）：熊谷氏発表

「災害犠牲者個人識別の国際標準から学び日本が応用できることを考察する」

## < 学術論文 >

岡広子, 勝村聖子, 大林由美子, 小菅栄子, 斉藤久子, 熊谷章子.

「海外12か国と日本における災害時歯科個人識別システムの比較」

日本法歯科医学雑誌. 2019; 62: 97-102.

咲間彩香, 斉藤久子, 勝村聖子, 熊谷章子, 岡広子, 本村あゆみ, 岩瀬博太郎.

「日本の災害時において歯科身元判明率が向上しない要因に関する検討」

Japanese Journal of Disaster Medicine. (in press).

熊谷章子, 勝村聖子, 岡広子, 大林由美子, 小菅栄子, 斉藤久子.

「International Congress of Mass Disaster (CIDEM) project による大規模災害訓練に参加して」日本法歯科医学雑誌. (in press)

## < 著 書 >

JUMP 「3.11 Identity—身元確認作業に従事した歯科医師の声を未来へ—」

ブックウェイ出版, 兵庫, 2016